

中国語の環

第133号

『中国語の環』編集室編 2026年9月

- 目次 10 **中国語でどういう？** 考えようとしなの？
- 11 **例文で説き(=解き)ほぐす中国語文法**
Lesson 17 あるあるミスから学ぶ中国語… (その1)
- 12 **中国語と文化** “不”の発音の謎
- 13 **語彙学習の話** 形容詞“爽”について
- 14 **看图学汉语** 球类运动
- ※ **紛らわしい文法表現** “不明天去”と“不是明天去”
- ※ **中国語の文法は面白い** 中国語の“想”“愿意”“要”について (4)
- 16 **読者の広場** 第二の中国語を学ぶ



『中国語の環』Web

※Web版のみ

ひとことエッセイ

《现代汉语词典》第7版は接尾辞“子”を伴う見出し語を945語収録する。その大部分は“桌子”“剪子”“胖子”のように名詞や動詞・形容詞の造語成分が“子”を伴って形成された名詞で、全体のおよそ8割、775語を占める。さらに“摆架子”“给面子”のように動詞がこれらの名詞を伴って形成された慣用語が107語もある。他にも数は限られているが、量詞、代詞、形容詞、副詞として働くものなど多岐にわたる。

以上、《现汉》を頭から頁を繰って数えたわけではない。先ごろ刊行された《现汉》第7版の「倒序本」(いわゆる「逆引き辞典」)の“子”の項を引いてみたまでである。

文法事項に限らず、例えばお茶やお酒の種類を知りたいときなど逆引きは大いに威力を発揮する。“～女”が57語もあるのに“～男”は6語しかないなんて発見も楽しい。

《现汉》倒序本の精密さには遥かに及ばないが、かれこれ半世紀近い昔、相原茂さんと逆引きに挑戦したことがある。1982年1月初版、1993年6月改訂新版、日外アソシエーツ。現代中国語の逆引き辞典としては初めての試みかと自負している。(上野 恵司)

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

考えようとしなの？

張 勤（中京大学）

先日、友人の家でご馳走になっていた時のこと。料理があまりにも美味しくて、思わず「今日の料理、どうしてこんなに美味しいの？」と尋ねると、友人は笑いながらこう言った。

(1) 你不想想这是谁做的? (あんた、ちょっと考えてみなよ。これ、誰が作ったと思う?)

直訳すれば「あなたは考えようとしなの？」となるこの一言。一見すると少しきつい言い方にも聞こえるが、実際のニュアンスはずっと軽い。相手を責めるのではなく、「考えれば分かるでしょう？」と、少しからかいながら答えを促す言い方である。

この“你不想想……?”は、日本語なら「ちょっと考えてみなよ」「当ててみてごらん」に近い表現だ。そして面白いのは、本気で考えさせようとしているわけではないことだ。答えはもうほとんど見えている。「今日はお母さんはいない。それなら誰が作ったの？」——そんなやり取りそのものを楽しんでいるのである。

実際の会話はこんな具合だった。

(2) A (わたし): 今天的菜, 怎么这么好吃? (今日の料理, おいしいね!)

B (友人): 你不想想这是谁做的? (少し考えてみなよ。誰が作ったと思う?)

A: 你妈妈做的? (お母さん?)

B: 今天我妈妈在吗? (今日はうちの母いる?)

A: 是你做的呀? (あ, じゃあ君が作ったんだ!)

B: 你想啥呢! (何言ってるの!)

会話のテンポのよさと、少し相手をからかいながら話を進める雰囲気、中国語らしい面白さが感じられる。この“你不想想……?”は、思いのほか日常会話でよく耳にする。

(3) 你不想想, 人家为什么这么做? (ちょっと考えてみなよ。どうしてあの人がそんなことをしたのか。)

(4) 你不想想, 这么晚了, 还有车吗? (少し考えれば分かるでしょ。こんな時間にまだ電車があると思う?) (“你不想想现在几点了?” にすると上の会話と同じ形式となる。)

(5) 你不想想, 他会答应吗? (考えてみなよ。彼が引き受けると思う?)

どれも相手を責めているわけではない。むしろ、「答えはもう分かっているよね」という共通認識を楽しむような、軽妙な会話の中で使われる表現である。

いつか誰かに「どうして？」と聞かれたら、あなたも笑いながらこう返してみたいかがだろう。“你不想想……?”

Lesson17 あるあるミスから学ぶ中国語…（その1）

古川 裕（大阪大学）

2026年4月から9月までのNHKラジオ講座「まいにち中国語」を担当しました。この講座のコンセプトは、日本の中国語学習者の皆さん、特に入門や初級レベルを終えて中上級レベルへのレベルアップを目指している人々を応援すること。既に学んだ文法事項や語彙をおさらいしながら、中国語を新たな角度から見る視野を提供することでした。よく言われる中級を目指しながら「迷える学習者」を救うためのコスパ最強ゼミとなること、これが第一の狙いです。そして、学習者だけではなく、中国語を教えておられる先生方にも中国語の教え方の一つの試みを提供しようというのが第二の狙いでした。おかげさまで、放送中は学習者や教師の方々から数多くの反響をいただくことができました。ありがとうございました。

このラジオ講座で試みた新たな教え方とは、誤用分析“**偏誤分析**”の成果を中国語の学習と教育の双方に活かすということです。学習者の誤用は本来好ましいものではありません。しかし、逆転の発想で「ミスはチャンスに変えられる！」と考えましょう。ミスを積極的に取り上げて、同じ誤用を再生産しないための対策を練ることが肝要です。そこで、『「なぜ？」から「なるほど！」へ』というキーワードを提示しました。なにせ相手は外国語ですから、ミスは避けられません。なので、ミスを恐れて萎縮することは全くありません。ミスが生じたら、まず「どこがおかしい？」「なぜおかしい？」を考えて、ミスの在りかと原因を突き止めます。従来の誤用分析は多くの場合、そのミスがどんなタイプのミスなのか、たとえば、語順、脱落、混在、余計な使用…などなどミスを分類して一件落着でしたが、そのようなミスの分類は「なぜ？」おかしいのかを説明しない限り、実用的な価値をもちません。学習者と教育者双方にとって本当に価値があるのは、個々の「なぜ？」を「なるほど！」へと導くことです。「なるほど！」への説明プロセスがこの講座の腕の見せどころで、15分間の放送時間内にエッセンスを凝縮してリスナーに届ける作業を合計120回積み上げました。

そこで、このNHKラジオ講座「まいにち中国語」でどのようなミスを取り上げたか、その一部を順にご紹介してゆきます。今後の連載では『中国語の環』誌面をお借りして、これらのミスをゆるゆると説き（解き）ほぐしてゆきたいと思います。

学習者の皆さん、そして、同業者の先生方、以下の誤用例において、どこにミスがあるか、そのミスが「なぜ？」生じたのか、そして、同じミスをしないための「なるほど！」テクニックは何か…を一緒に考えてみましょう。

□お名前は何か？：×你的名字是什么？

□彼は中国人留学生です。：×他是中国人留学生。

くわいしいお話は、次回のお楽しみに！

“不”の発音の謎

加藤 徹（明治大学）

“不” bù という漢字の発音は、日本語でも中国語でも謎に満ちている。

現代日本の常用漢字表では「不」の音読みは「フ、ブ」である。「不思議」は「フシギ」だが、「不気味」は「ブキミ」。フもブも、中国語の発音 bù と似ている。ここまでではわかる。

だが、漢和辞典を引くと、「不」の音読みは「フ、ブ」以外にも、「ホツ、ホチ、フツ、フチ」など古代中国語の「入声」の音読みもあったことがわかる。

日本人が声をあげて読む仏教のお経には、ときどき、今はすたれた古い漢字音が出てくる。例えば、鳩摩羅什訳『法華経』如来寿量品第十六の「…虚妄罪不，不也…」の読み方は、宗派によって多少違うが、おおむね「こもうざいふ、ほちや」もしくは「ほっちゃ」と読む。大昔の中国語では、「不」を時には「弗」（フツ）のように読んだ。そのなごりが、日本人の読経（どきょう）の発音の中に生きた化石として残っているのである。

さて、次は中国語の“不”の発音の謎だ。bù は第4声だが、この後ろに第4声の発音の語が来ると、第2声に「声調変化」して bú になる。例えば、“去” qù（意味は「行く」）という第4声の語が後ろに続くと、

不去 bù+qù → bú qù

と、“不”は第2声になる。たしかに「第4声+第4声」で発音するより、「第2声+第4声」と声調変化させたほうが、少し楽になる。合理的だ。

でも、なぜ“不”という漢字に限って声調変化するのか？

実は、「不」の日本漢字音「ホチ」と関連がある。

中国語では“一，七，八，不” yī, qī, bā, bù の4つの漢字に限り「第4声の前に来ると、第2声になる」という声調変化の法則がある。このうち“七，八”の声調変化はすたれ、“七岁” qí suì（七歳）とか“八路军” bālùjūn（八路軍）などは高齢者だけの言い方になった。“一”と“不”は、現在も声調変化が残っている。

さて「一，七，八，不」という漢字の日本語の音読みは？「イチ、シチ、ハチ、フ（フチ・ホチ）」そう。どれも「チ」で終わっている。

なぜ、日本漢字音が「チ」で終わる「一，七，八，不」が、そろいもそろって声調変化をするのか？ その理由について語ると、「北方の中国語における入声の消滅」という歴史的経緯を説明する必要がある、長くなるので割愛する。

このように、日本語の漢字の音読みは、昔の中国語を介して、現代中国語としつつつながっているのだ。

形容詞“爽”について

沈 国威（浙江工商大学）

形容詞は、物の形状や性質、事の程度を表す言葉である。名詞のように新しい事物の出現に応じて増えていくことはないようにも思われるが、人々はいつも新しい言葉でその時々感覚、感情を表そうとするから、いつの時代にも新しい形容詞が求められることになる。ネット時代にあっては特にそうである。ここで取り上げる形容詞“爽”もその1つである。“爽”は、元々単独では使われず、“秋高气爽”“凉爽”；“爽快”“豪爽”“直爽”のように複合語全体で「さわやかだ」「すがすがしい」「(性格が) さっぱりしている」という意味を表す。しかし最近ではネット流行語として単独で、あるいは今までなかった結合パターンで用いられるようになっていく。まず次の例を見てみよう。

- (1) 大音量听摇滚太爽了！（大音量でロック聴くのは最高に痛快だ。）
- (2) 大热天来杯冰啤酒，真爽！（暑い日に冷えたビール一杯、実に気持ちがいい。）
- (3) 考摩托驾照，一次就过，心里好爽。

（自動二輪免許の試験を一発でパスした。本当にいい気分だ。）

- (4) 这场比赛，我们大学的足球队以弱胜强，爽！

（この試合は我が大学のサッカーチームは強敵を倒した。痛快だ。）

(4)は今まで見られない感嘆詞的な用法と言える。このような単独で用いる用法の他に、次のような新しい複合語もSNSなどで頻繁に見られる。

爽文/爽剧：ネット小説やテレビドラマに対する今どきの最も肯定的な評価である。テンポが良く、主人公が神がかった強さで敵やライバルを倒し勝利を収めるストーリーを指す。スーパーマンやスパイダーマン的な快感がミソだ。例えば“爽文爽剧有人喜欢，我觉得无聊。”「爽文爽剧は好きな人もいるが、私にはつまらない。」

酸爽/虐爽：自虐的、矛盾した、複雑な快感を指す。全体的に「たまらない」または「やめられない」という気持ちを表そうとする。例えば“这个菜真辣，可是欲罢不能，太酸爽了。”「この料理はとても辛いが、やみつきになる。変な気持ちだ。」

被爽到：“爽”の受動的な使い方。思いがけない快感を強調する。次のような用例がある。“看这个视频，我真的被爽到了。”「この動画を見て、私は本当にすっきりした。」

以上のように“爽”は「さわやかだ」「すがすがしい」という感覚表現から、高ぶる感情の表出に用いられる言葉となった。従来の“爽”は、天気や人間関係等の環境要因によって触発された感覚を表すが、今は視角的、聴覚的、ないし味覚的に引き起こされた心理的、感情的な状態を表す新しい役目を獲得している。つまり“爽”は、ネット空間からリアルな現場までみずからの体験を語る際の具体的で臨場感のある表現として、情緒のパラメーターになっているのである。

球类运动【球技】

絵 張 恢

文 『中国語の環』編集室



排球 páiqiú バレーボール

- 打dǎ排球 バレーボールをする
- 发球fāqiú ➢ 接球jiēqiú
- 扣球kòuqiú ➢ 传球chuánqiú
- 拦网lánwǎng ブロックする



棒球 bàngqiú 野球

※垒球lěiqiú ソフトボール

- 打棒球 ➢ 投球 ➢ 投手 ➢ 捕手 ➢ 打者
- 安打 ➢ 本垒打běnlěidǎ ➢ 出局chūjú
- 一垒手 ➢ 游击手yóujúshǒu ➢ 外野手
- 总教练zǒngjiàoliàn ➢ 裁判员cáipànyuán



乒乓球 pīngpāngqiú 卓球

- 打乒乓球 ➢ 球台 ➢ 球网 ➢ 球拍
- 发球fāqiú ➢ 接球jiēqiú
- 正手 フォアハンド ➢ 反手 バックハンド
- 单打dāndǎ ➢ 双打shuāngdǎ



篮球 lánqiú

バスケットボール

- 打篮球 ➢ 拦网lánwǎng
- 运球yùnnqiú ➢ 传球chuánqiú
- 投篮tóulán ➢ 扣篮kòulán
- 带球走步dàiqiú zǒubù トラベリング



网球 wǎngqiú テニス

- 打网球 ➢ 网球场 テニスコート
- 男单 ➢ 女单 ➢ 男双 ➢ 女双
- 混合双打hùnhé shuāngdǎ ➢ 混双
- 扣杀kòushā スマッシュ ➢ 截击jiéjī ボレー
- 平分píngfēn ➢ 种子zhǒngzi シード



羽毛球 yǔmáoqiú バドミントン

- 打羽毛球 ➢ 羽毛球拍
- 杀球shāqiú ➢ 高远球gāoyuǎnqiú
- 吊球diàoqiú ➢ 抽球chōuqiú ➢ 扑球pūqiú
- 搓球cuōqiú ➢ 挑球tiāoqiú



高尔夫球 gāo'ěrfūqiú ゴルフ

- 打高尔夫球 ➢推杆 tuīgān バター
- 木杆 mùgān ➢铁杆 tiěgān ➢一号木杆
- 果岭 guǒlíng ➢沙坑 shākēng
- 长草区 zhǎngcǎoqū ➢一杆进洞
- 博基 bóji ➢球童 qiútóng



橄榄球 gǎnlǎnqiú ラグビー

- 打橄榄球 ➢橄榄球比赛
- 达阵 dázhèn トライ ➢踢球 tiqíu キック
- 开球 kāiqíu ➢争球 zhēngqiú ➢擒抱 qínào
- 前锋 qiánfēng ➢后卫 hòuwèi



手球 shǒuqiú ハンドボール

- 打手球 ➢手球场
- 球门 ➢球门区 ➢球门线 ➢球门柱
- 走步/带球走 オーバーステップ
- 两次运球 ダブルドリブル



足球 zúqiú サッカー

- 踢ti 足球 ➢足球场 zúqiúchǎng
- 传球 chuánqiú ➢射门 shèmén ➢进门 jìn mén
- 角球 jiǎoqiú ➢任意球 rènyìqiú ➢点球 diǎnqiú
- 黄牌 huángpái ➢守门员 ➢后卫



保龄球 bǎolíngqiú ボウリング

- 打保龄球 ➢保龄球场 ➢球瓶 qiú píng
- 球道 qiú dào ➢助走 zhù zǒu ➢沟球 gōu qiú
- 投球 tóu qiú ➢全倒 quándǎo / 全中 quánhòng
- 分瓶 fēn píng ➢补中 bǔ zhòng スペア



冰球 bīngqiú アイスホッケー

- ※曲棍球 qūgùnqiú ホッケー
- 打冰球 ➢溜冰场 liūbīngchǎng
- 冰球棍 bīngqiúgùn ➢冰鞋 / 滑冰鞋
- 开球 kāiqíu / 争球 zhēngqiú フェイスオフ
- 越区传球 アイシング ➢越位 オフサイド

訳語のない語句は辞書を引いて調べてみましょう。

第二の中国語を学ぶ

翁 謀業（目白大学中国語学科4年）

初めにお断りしておきたいことがあります。名前から分かる通り、私は中国籍です。しかし、「中国語」を初めから話せたわけではありません。両親は福建省の出身で、家庭の言語は標準語（普通話）ではなく、閩南語に近い「福清語」という方言になります。声調の数も音の体系も標準語とは大きく異なるため、私にとって普通話とは「外国語に近い第二の中国語」といっても差し支えありません。

そんな私が中国語に真剣に向き合おうと決めたきっかけは、高校受験での挫折です。高校受験では自分の武器と呼べるものが何一つなく、不本意な結果に終わりました。さらに受験後の病気により利き手の右手と両足に麻痺、加えて記憶障害を負いました。できないことが一気に増えた中で、「自分に残されたものは何か」と考えた時、言葉を極めたいという思いが強くなりました。

まず取り組んだのは漢字学習です。標準語の学習に入る前に、日本語の漢字力を土台として固めようと考え、高校2年生で漢字検定3級、3年生で2級に合格しました。合格の通知を見た瞬間、病気の後をはじめ「自分にもまだできることがある」と心から思えたことを、今でもはっきり覚えています。

大学に進学してからは、「中検で1年に1つ上の級に合格する」という目標を立てました。記憶障害のある自分にとって、大きな目標を1つ掲げるよりも、1年という区切りで小さく刻む方が、日々の学習に集中しやすかったからです。その結果、1年生の終わりに3級に、2年生の終わりに2級に合格することができました。

学習を進める中で苦労しているのが、リスニングの長文問題です。長い文章をそのまま記憶しておくことができないため、1回目で問題文と選択肢を把握し、2回目で本文と照らし合わせて答えるという工夫を重ねてきました。完璧に聞き取ろうとせず「正解に必要な情報だけを拾う」と割り切ることで正答率が上がり、大学のe-Learningを繰り返し使いながら合格点に近づけてきました。日頃から分からない単語はすぐに調べ、中国から来た留学生と積極的に会話をし、間違いがあればその場で正してもらうようにしています。

3年生の終わりには、次の目標である準1級に挑戦しました。中国語の長文を聞いて要約するという新たな壁に向き合いましたが、これまでと同じように、自分に合った方法を見つけながら一歩ずつ準備を重ねてきました。本稿執筆時点では結果はまだ分かりません。しかし、合格がどうであれ、手足と記憶力に障がいがあり、母語が日本語でも標準語でもない私でも、工夫と周囲の支えがあれば前に進めるということを、この3年間で実感できました。この事実が、皆様が中国語学習に踏み出す小さな後押しになれば幸いです。



“不明天去”と“不是明天去”

魯 曉琨（文京学院大学）

前々回では“不”を状況語の前に置いて、状況語を否定することについて説明しましたが、“不是”も状況語の前に置いて状況語を否定することができます。今回は両者の違い、特に“不是”の使用範囲について話を進めていきます。

まず、例(1)(2)を比較してみましょう。

(1) 夫：你明天就去给孩子交学费吧！

（あなたは明日には子供の学費を払いに行ってください。）

妻：不明天去，月末再去。

（明日は行かないで，月末になってから行きます。）

(2) 夫：你明天去给孩子交学费吧？

（あなたは明日には子供の学費を払いに行くんでしょう。）

妻：不是明天去，是月末去。

（明日ではなく，月末に行きます。）

例(1)では、夫の命令に対して、妻は“不”を用いて自分は明日に行かないという意志を表明しましたが、(2)では、夫の“明日”という認識に対して、妻は“不是”を用いてその認識を否定し、月末という正しい日にちを提示しました。

例(2)と同じ使い方の“是”に学習者は最初“是…的”構文を習うときに出会ったはずですが、“是…的”構文は既に実現済みの事柄について、その時間・場所・方式（手段）・関与者などを取り立てて述べる表現です。例えば、

(3) 他（是）1986年出生的。（彼は1986年生まれです。）

(4) 这件衣服（是）在上海买的。（この服は上海で買ったのです。）

(5) 我（是）坐船来的上海。（私は船で上海に来たのです。）

(6) 这个礼物（是）给妈妈买的。（このプレゼントは母に買ったのです。）

(7) （是）小王画的这张画。（王さんがこの絵を描いたのです。）

“是…的”構文は情報伝達という視点から解釈すると分かりやすいでしょう。“是…的”構文では、“的”は過去形を示すが、“是”はフォーカスマーカーとして新情報の所在を提示します。動作が実現済みにより、新情報の所在は明確であるため、“是”は省略できます。

“是…的”構文の否定形は“不是…的”です。“不是…的”構文では“不是”を省略することはできません。上記の(3)～(7)の否定形は下記ようになります。

(3)′ 他不是1986年出生的。（彼は1986年生まれではありません。）

(4)′ 这件衣服不是在上海买的。（この服は上海で買ったではありません。）

(5)′ 我不是坐船来的上海。（わたしは船で上海に来たではありません。）

(6)′ 这个礼物不是给妈妈买的。

(このプレゼントは母に買ったのではありません。)

(7)′ 不是小王画的这张画。

(この絵を描いたのは王さんではありません。)

“是”はフォーカスマーカーとして“是…的”構文に限られているわけではなく、広範囲に用いることができます。例えば、

(8) 田中今天打小林了。(田中さんは今日小林さんを殴りました。)

a 是田中今天打小林了。(田中さんが今日小林さんを殴りました。)

b 田中是今天打小林了。(田中さんは今日小林さんを殴りました。)

c 田中今天是打小林了。(田中さんは今日小林さんを殴りました。)

例(8)“田中今天打小林了。”という文に対して“是”をa b c ではそれぞれ異なる位置に置くことによって、その直後の部分がフォーカスであることを提示します。“是”はフォーカスマーカーとして新情報を提供すると同時に関連項目を排除し、間違った情報を訂正します。(8)aでは、動作者は田中であり、田中以外の関係者を排除し、(8)bでは時間は今日であり、他の日にちを排除し、(8)cでは動作は殴打であり、罵り等を排除しました。

この“是”の否定形も“不是”です。“不是”はフォーカスマーカーとして提供された情報を否定します。

(8)′ a 不是田中今天打小林了。

(今日小林さんを殴ったのは田中さんではありません。)

b 田中不是今天打小林了。

(田中さんが小林さんを殴ったのは今日ではありません。)

c 田中今天不是打小林了。

(田中さんは今日小林さんを殴ったのではありません。)

“是”はフォーカスマーカーとして未然のことに用いることができます。その否定形も“不是”です。否定形の例文のみ挙げます。

(9) a 不是学生明天在礼堂开会，是老师明天在礼堂开会。

(学生が明日講堂で会議を開くのではなく、先生が明日講堂で会議を開きます。)

b 学生不是明天在礼堂开会，是后天。

(学生が講堂で会議を開くのは明日ではなく、明後日です。)

c 学生明天不是在礼堂开会，是在大教室。

(学生が明日会議を開く場所は講堂ではなく、大教室です。)

d 学生明天在礼堂不是开会，是演节目。

(学生は明日講堂で会議を開くのではなく、出し物を演じるのです。)

要するに、“是”はフォーカスマーカーとして已然の構文にも未然の構文にも用いることができ、どの構文でも“是”は新情報の所在を提示し、その新情報と関連している情報を排除します。反対に“不是”は提供された情報を否定します。

中国語の“想”“愿意”“要”について（4）

王 志英（沖縄大学）

“要”は主体の意志を表す場合、「…したい、…するつもりだ」という意味を表し、主体がある行動に取り掛かろうとする段階に使われる。

動詞としての“要”は主体がある対象を手に入れるための態勢にいることを表す。

(1) a 我要一瓶啤酒。(ビールをください。)

b*我想一瓶啤酒。

“要”は主体が行動に移す時の決意を表すので、ある行動を実行すると決めたら、“要”は使えるが、実行するかいなかはまだ不明な段階なら、“要”は使えない。

(2) a 我想去拜访您，可以吗？

(お伺いに参りたいのですが、ご都合はいかがでしょう。)

b*我要去拜访您，可以吗？

c 我要去拜访您。(お伺いに行こうとしている。)

(2)のaは相手に許可を求め、まだ主体の内心の希望や考えを表す段階で、“拜访”を実行する段階ではないので、“想”は使えるが、“要”は使えない。もし、主体が一方的にこれから“拜访”を実行しようとするなら、cのように“要”が使える。

(3) a 他打了我，流了很多血，我发誓要给他一点颜色看看的。

(彼に殴られ、血だらけだ。絶対復讐しようと思った。)

b?他打了我，流了很多血，我发誓想给他一点颜色看看的。

(3)は「復讐する」という意志が固く、実行する決意を表すため、“要”は使えるが、“想”は少し違和感がある。

“要”は主体がある行為に移す時の固い意志を表す場合に使うので、“一定，急于，非，硬，偏”という固い意志を表す副詞と共に起できるが、“想”はできない。

(4) a 她也来了，非要跟我来。

(彼女も来た。どうしても私と一緒に来たかった。)

b*她也来了，非想跟我来。

ある状況になろうとしている場合も“要”が使える

(5) 天要下雨了。(まもなく雨だ。)

“要”はまた、ある態勢にいることを相手に要求することができる。

(6) 你要好好学习。(しっかり勉強なさい。)

逆にある態勢になることが望ましくない時にも使える。

(7) 上课时不要说话。(授業中おしゃべりするな。)

以上の議論をまとめると、“想”と“愿意”は主体が行動に移る前の思考活動や希望を表すのに対し、“要”は主体の思考活動や希望を表す段階から行動に取りかかろうとする段階の意志を表すということになる。